

20150321 タカマタギ山行報告書

【行動日】 3月21日（土）

【ルート】 谷川連峰タカマタギ

【登山方法】 雪山登山

【メンバー】 CL 柘植 秀樹、富樫 富久美、澤田 淳子、澤田 路子、寺門 透（記録）

【行動時間】

毛渡橋出発：6:30→林道再スタート（JR 線路鉄橋くぐった地点）：6:55→尾根取付き：7:10/7:15→靴底トラブル：7:45/8:05→1070m/休憩：9:10/9:20→1320m/アイゼン着：10:05/10:20→棒立山：10:45→タカマタギ山：11:25/11:50→棒立山：12:15/12:40→1320m/アイゼン脱：12:50/13:00→尾根取付き：14:15→毛渡橋：14:35

【計画】

谷川連峰の冬の名峰タカマタギ（1525m）へ棒立山（1420m）から登る山行を柘植さん企画にて実施。柘植さんは過去5度山頂を踏めず6度目のリベンジだとのこと、澤田路子さんは一度登頂経験があるそう。天候に恵まれないと山頂を踏むのは難しい。

当初は山中泊で日白山まで足を延ばす周回コースを予定していたが、日曜の天候がおもわしくないとの情報で、前夜発土曜日帰りに変更となった。

柘植さんは前週に、タカマタギのお隣の東谷山に登っており、積雪量や雪質については正確な情報を掴んでいた。雪はかなり締まっているとのこと。

天気予報では関東は晴れ、快晴が期待された。

【山行往路】

前夜千葉から出発、柘植車にドライバー含め5名、各人ピックアップして出発（バラバラでお手数かけました）。関越にてスムーズに赤城PAに、ここでテント張って野営。

翌朝4時半時起床で5時出発、湯沢IC下車、途中コンビニ寄って土樽駅手前の登山口となる毛渡橋到着、すでに3台ほど駐車あり。柘植車ノーマルタイヤのため雪道を警戒したが結局道路はすべて路面が出ていた。

天気快晴無風、気温も高め、と絶好の登山日和、準備して出発。林道入り口には「平標」を示す標識、ここが平標新道のスタート地点だったことを帰宅してから気づく。

のっけからコースミス、川沿いを進む仙ノ倉/平標方面登山者のトレースを辿ってしまったのが失敗。タカマタギに向かう林道に戻るルートを探す手間取り結局JR高架をくぐったあたりの斜面上って林道に合流した、30分のロス。



〈上越線鉄橋下（この先で道を間違える）〉



〈林道から尾根末端に取付く〉

林道途中の尾根取付き地点から急斜面を登り始める。ここからワカン装着。最近降雪は無かったようでトレースははっきりついている。

30分ほど登った地点でトラブル発生、柘植さんの登山靴の靴底が踵から1/3ほど剥がれてしまった。持参したスリング2本で縛りつけ応急措置、ワカンを装着していることもありなんとか靴底を固定できた。一時はここで撤退かとも思ったが対応できてほっとする。靴底剥離は予想し難いので応急措置として針金等を持参すべきと、柘植さん反省の弁。買って5年の冬靴でそんなに酷使していないとのことだった（後日ヨシキにて修理依頼、GWまでには直るとのこと）



〈正面に第一の目標の棒立山が見える〉



〈のんびり休憩〉

気を取り直して出発、雪はザラメ状で、ワカン装着していることもあり足元は快調。時間がたつにつれて日差しが強くなりジャケットを脱ぐ、上は下着+長袖シャツの2枚で十分、帽子も冬用ニットは不要で、鏝のある夏用帽子に取り換える。下もアルパインパンツを脱ぎたいほど暑いがスパッツ&ワカンを脱ぐのが面倒で我慢する。この時期、天気が良ければアルパインパンツは不要。柘植さんは上下共冬用でなく、夏用レインとしたとのこと、正解である。強い日差しにサングラスも装着。

魚のヒレのように尖った棒立山山頂がどんどん近づいてくる。南側に棒立山から急角度で下っている尾根が、昨年2月に別の山岳会の山行でトライしてあっけなく撤退となった支稜線。



〈主稜線からは棒立山が手に届く近さ〉



〈背景白い山は白毛門から巻機山への稜線〉

棒立山直下の急斜面手前 1320m 地点でアイゼン装着、ピッケルも取り出す、片手にストック、片手にピッケルのスタイル。柘植さんアイゼンはなんとか装着できた様子、逆にアイゼンつけてれば踵剥がれの押さえになって好都合。

急斜面だが氷結しているわけではないので不安は感じることなく登れる。大展望の棒立山着。正面タカマタギが端正な姿でそそり立ちかっこいい、周囲の雪山もぐるりと見渡せる、これぞ春山！



〈棒立山山頂、中央の独立峰は飯士山〉



〈目指すタカマタギが堂々と聳える〉

時間も惜しいので写真とってすぐにタカマタギ目指す、タカマタギ眺めながらの登りは今シーズンの不遇な悪天下の山行をすべて払拭する極楽登山。

連なる尾根のあちこちに雪崩による斜面や雪庇の崩壊箇所があちこちに見える、雪崩どころか土砂崩れと言ってもいいような崩壊もあちこちに。タカマタギ直下にも不気味な亀裂が走っている(帰

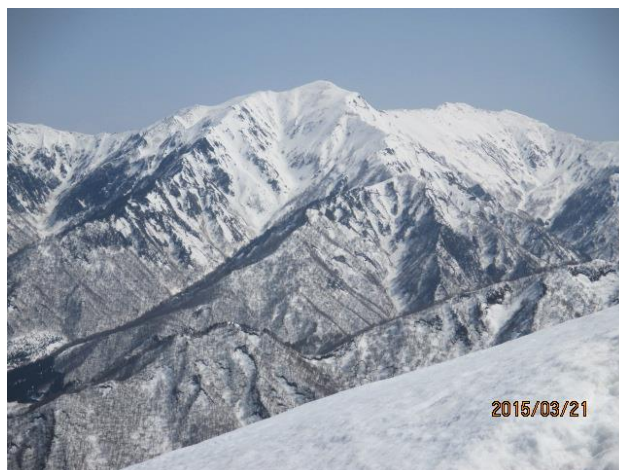
りに振り返ったら、この亀裂が見事に崩壊して雪崩れてました)。これからの時期谷筋は雪崩の巣となり立ち入り要注意。

10:45 タカマタギ登頂、トラブルでのタイムロスを除くと登山口から実質 3 時間半といったところか。山頂も無風快晴で大展望を楽しむ。北には遠く守門、その手前が越後三山の八海山、中岳、北西に巻機山、湯沢町の背後に小ぶりだがキリッと聳える飯士山（麓のスキー場が興ざめだが）、その南には大源太山（ヤマケイ 3 月号の表紙！）、その手前には一昨年登った荒沢山、そして隣の足拍子山と両山を繋ぐ険悪な釣り尾根（2 月の厳冬期はヒマラヤ襲が壮絶に美しかったのだがこのシーズンは山肌が露出してしまっただけで藪山化の一途）、清水峠の向こう側は朝日、笠ヶ岳、白毛門方面、南東方面正面が堂々たる茂倉岳、反り返って聳える山容は甲斐駒にも劣らない雄姿、その奥が双耳峰の谷川岳だが山頂がちょこっと見えるだけ、そして谷川から、万太郎、仙ノ倉、平標と居並ぶ稜線（春山縦走気持ちいいだろうな・・・）、そして直近南西方面に日白山、その右側西方面に東谷山、その奥に飛行場のような平な山頂の苗場山、神楽峰、そして遠く北東に見えるのは妙高か。360 度の展望に大満足。

行動食として下山、汗かいたので女性陣に頂いたミカンが美味しい、この時期水分補給も重要、ホットだけでなく冷水もご持参ください。



〈タカマタギ山頂〉



〈谷川岳から茂倉岳への稜線〉

【山行帰路】

見下ろす棒立山には後続の登山者が何人も見える。ますますキツくなる日差しを浴びながら、張り出した雪庇踏み抜きを注意しつつ快適な下降。時折シュルンドが走っているのが見えて緊張する。

棒立山には大勢の登山者、快晴の春山をのんびり楽しんでいる、リクライニングチェアでワインでも飲みながら寛ぎたい気分。

デカザックを背負ったドレッドヘア（神楽峰遭難のオジといい、流行ってんの？）のオネーちゃんがキャーキャー言いながらご到着、ご一行は平標まで縦走で雪洞掘って野営とのこと、茂倉バックに写真を撮ってあげる。

20150321 タカマタギ山行報告書

アイゼン装着地点でアイゼン外すと後は一気に斜面を下り降りるだけ、トレース外れるとそれなりの積雪なのでマッサラな雪の斜面にズブズブ踏み込みながら駆けるように下る。

下山はあっという間、毛渡橋に戻ると車が 10 台程度、我々が最も早い下山組らしい。すぐ近くの岩の湯に立ち寄り入浴、ポカポカ陽気の中帰路に就く。

旅の最後に高速入口料金所でゲートが下りて停止させられるハプニングに冷や汗。柘植さんが駐車地点で ETC カード抜き取ったのを入れ戻し忘れのため。ETC 機器からの注意喚起アナウンスも無かった・・・(グスッ)。

ハプニング連続でしたがとても楽しめました、柘植さん、パラダイスの春山ツアー企画&リードありがとうございました！！

以上